

【イゾルデの愛の死(楽劇「トリスタンとイゾルデ」より)のドイツ語歌詞・ト書き と 日本語訳】

プログラムの解説文と併せてお読みください。

切れ目無く演奏される「前奏曲と愛の死」の後半部であり、楽劇「トリスタンとイゾルデ」の終結部分に当たります。

以下、**左側が(イゾルデが歌う)ドイツ語の歌詞** (括弧書きの斜体字は場面を記したト書き)、**右側がその日本語訳**です。

(Isolde, die nichts um sich her vernommen, heftet das Auge mit wachsender Begeisterung auf Tristans Leiche)

(イゾルデは、何も耳に入らない中で熱情を募らせ、トリスタンの亡骸をじっと見据える)

(ISOLDE)

Mild und leise wie er lächelt
wie das Auge hold er öffnet,
seht ihr's Freunde? Seht ihr's nicht?
Immer lichter wie er leuchtet,
Stern umstrahlet hoch sich hebt?

Seht ihr's nicht?
Wie das Herz ihm mutig schwillt,
voll und hehr im Busen ihm quillt?
Wie den Lippen, wonnig mild,
süßer Atem sanft entweht:

Freunde! Seht!
Fühlt und seht ihr's nicht?
Höre ich nur diese Weise,
die so wundervoll und leise,
Wonne klagend, alles sagend,
mild versöhnend aus ihm tönend,
in mich dringet, auf sich schwinget,
hold erhallend,
um mich klinget?

Heller schallend,
mich umwallend,
sind es Wellen sanfter Lüfte?
Sind es Wolken wonniger Düfte?
Wie sie schwellen, mich umrauschen,
soll ich atmen, soll ich lauschen?
Soll ich schlürfen, untertauchen?
Süß in Düften mich verhauchen?

In dem wogenden Schwall,
in dem tönenden Schall,
in des Welt-Atems
wehen dem All,
ertrinken, versinken, unbewußt,
höchste Lust!

(Isolde sinkt, wie verklärt, in Brangänes Armen sanft auf Tristans Leiche. Große Rührung und Entrücktheit unter den Umstehenden. Marke segnet die Leichen. Der Vorhang fällt während der letzten Fermate.)

弦楽器の音色が
変わり、浮き立つ
様な三連符が出て
くる。

伴奏全体が徐々に
盛り上がる。

音量が頂点に達
するが、その直後
に波がうねる様
に大きく上下す
る。

急激に音量を落
とし、再び徐々に
盛り上がる。

再び音量が頂点
に達する。

徐々に音量を下
げつつ、穏やかな
調べとなる。

(イゾルデ)

おだやかに、静かに 彼が微笑みながら
目をやさしく 見開く様子が
みなさんには見えているの？ 見えないの？
しだいに明るく かがやきを増し、
星々に照らされて 空高く昇っていくのを・・・

見えないの？
彼の心臓が 雄々しく盛り上がり、
気高く 胸の中でふくらむのを？
その唇から おだやかに幸せそうな
甘い吐息が 静かにこぼれるのを・・・

みなさん！ 見て！
感じないの、見えないの？
この調べを聞いているのは 私だけなの？
こんなにも素晴らしく かすかに、
歓喜を嘆き、すべてを語り、
その響きの中から おだやかに調和し、
私に迫り、私を揺さぶり、
優雅に こだまし、
私の周りに響く、この調べを・・・！

ますます明るく 鳴り響きながら、
私の周りに 打ち寄せもの・・・
それは、やわらかな大気の波なの？
それとも、歓喜の沸き立つ 雲海なの？
それらがふくらみ、私を取り囲んだら、
それらを吸い込み、耳を澄ますの？
それとも囁き込み、沈んでいくの？
それとも甘い香りの中で、消えていくの？

このうねる様な 怒濤の中で、
この鳴り渡る 響きの中で、
全てを 吹き飛ばす
世界の息吹の中で、
溺れ、沈み、意識が遠のく・・・
この上ない 喜びよ！

(イゾルデは、荘厳に、侍女ブランゲーネの腕に抱かれながら、トリスタンの亡骸の上に静かに横たわり、事切れる。周りの人々は深く感動し、感極まる。マルケ王は十字を切り、祝福を与える。最後のフェルマータ(長く伸ばされた音)で幕が下りる。)